

福祉分野における学生の職業能力自己評価に関する調査研究

Research Study of Self-Assessment on Student's Vocational Ability in the Welfare Field

今井 訓子* 川村 博子* 漆澤 恭子*
黒田 静江* 松本 和江** 柴原 奏子**

平成25年2月に関係団体の協力を得て実施した卒業生の職業能力に関する調査結果から産業界が求めるのは専門力・実践力・人間力のある人材であることが明らかになった。この結果を参考として、本学においては授業改善に取り組んできたところである。さらに平成25年度と26年度に本学の学生を対象に自己の職業能力をどのように評価しているかのアンケート調査を実施した。学生達の職業能力自己評価の変化と今後のキャリアガイダンスの充実、授業改善の取り組みについて検討した。

キーワード：職業能力、自己評価、人材育成、介護福祉士、保育士

I 目的

平成25年度に実施した「福祉分野における人材育成に関する産業界ニーズ調査研究(1)」の調査結果から産業界が必要とするのは専門力・実践力・人間力であると明らかになった。その結果を踏まえ、平成25年度と26年度に本学の学生を対象に自己の職業能力をどのように評価しているかのアンケート調査を実施した。また、平成26年度には卒業後の自己評価に関する調査を施行し、在学中の自己評価と比較した結果、卒業後の方が上がっており、職場での体験が自己評価を高めることに繋がったと推察された。そこで、キャリアガイダンスの充実、授業改善の取り組みによって起こる自己評価の変化を探り、今後の就業力強化のためさらなるキャリアガイダンスの強化、授業改善の取り組みに反映することを目的として本調査研究を実施した。

II 職業能力評価アンケート調査

1 調査対象・方法

短大地域介護福祉専攻(以下、「地域」という)

と児童障害福祉専攻(以下、「児童」という)の「キャリアガイダンスⅡ」の授業において2年生を対象とした職業能力評価アンケート調査を実施した(資料参照)。

2 調査結果

(1) 回収率

「地域」は平成26年2月(対象者39名)、平成27年2月(同27名)、「児童」は平成26年2月(同92名)、平成26年12月(同93名)に調査を実施し全員回収した。

(2) 調査結果

平成25年度と平成26年度の2年次生の比較結果を以下に記す。

1) 「地域」の結果

平成25年度の結果は参考資料のグラフ1、平成26年度の結果はグラフ2のとおりである。

平成25年度で「あまりできない」「できない」の合計が30%を超えたのは、「移乗介助」(39%)「入浴介助」(33%)「買い物支援」(33%)、法的な知

* 植草学園短期大学福祉学科

** 植草学園短期大学キャリア支援課

識（介護保険法（36%）、生活保護法（44%）、権利擁護（59%）、身体障害者福祉法（46%）、知的障害者福祉法（52%））であった（グラフ1：参考資料1）。

平成26年度で「あまりできない」「できない」の合計が30%を超えたのは、「買い物支援」（37%）、法的な知識（介護保険法（48%）、生活保護法（67%）、虐待防止法（37%）、権利擁護（67%）、身体障害者福祉法（52%）、知的障害者福祉法（63%））、「悲観的思考」（40%）であった。また、ストレスコントロールのオープンマインドでは「できる」と「できない」の二極化が見られた（グラフ2：参考資料2）。

2）「児童」の結果

平成25年度の結果はグラフ3、平成26年度の結果はグラフ4のとおりである（グラフ3：参考資料3、グラフ4：参考資料4）

平成25年度で「あまりできない」「できない」の合計が30%を超えたものは、全質問項目（22）の半数であった。苦手と感じている項目は、「計画立案」（72%）、「実践」「記録」（ともに54%）、「子どもの成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」（52%）、「一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で主体的に活動に取り組めるようにする」、「ピアノ実技」（49%）、「自己評価」（47%）、「ミニゲーム」（45%）、「障害などに応じた保育及び支援」（40%）、「個々の発達に応じた援助」（38%）「製作」（37%）、「相手も自分も尊重した会話」（31%）であった。

平成26年度で「あまりできない」「できない」の合計が30%を超えたものは、22項目中わずか3項目で、「ピアノ実技」（47%）、「計画立案」（46%）、「記録」（41%）である。

（3）平成25年度、26年度の比較結果

平成25年度で「ややできない」「できない」の合計が30%を超えた項目について、両年度を比較したグラフを右に示す。グラフは「できる」「ややできる」を合わせた数をパーセントで示した。地域では「移乗介助」「入浴介助」「買い物支援」法的な知識（介護保険法、生活保護法、権利擁護、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）であったが、平成26

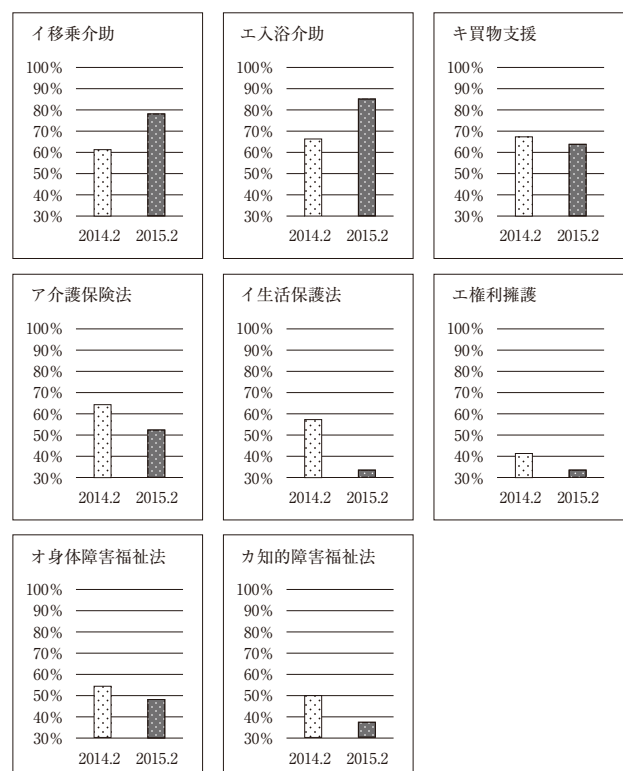
年度では「買い物支援」、法的な知識（介護保険法、生活保護法、虐待防止法、権利擁護、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）、「悲観的思考」のみと苦手項目は少なくなっていた。

平成26年度で苦手項目でなくなった「移乗介助」「入浴介助」について、平成25年度、26年度の「できる」「ややできる」を選んだ率の比較をしてみると、移乗介助（16ポイント（以下「p」））、入浴介助（18p）と得意意識がかなり高まっており、授業改善効果が表れていると考えられる。

一方、平成26年度に苦手項目とされた「買い物支援」、法的な知識（介護保険法、生活保護法、虐待防止法、権利擁護、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）、「悲観的思考」に関して平成25年度、26年度の「できる」「ややできる」を選んだ率の比較をした結果を次に記す。

「買い物支援」（-4p）、法制度（介護保険法（-12p）、生活保護法（-23p）、虐待防止法（-11p）、権利擁護（-8p）、身体障害者福祉法（-6p）、知的障害者福祉法（-12p）「悲観的思考」（-16p）であった。

児童では、平成25年度のアンケートで「あまりできない」「できない」の合計が30%を超えたものは、



以下の12項目であった。すなわち、「計画立案」「実践」「記録」「成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」「一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で主体的に活動に取り組めるようにする」「ピアノ実技」「自己評価」「ミニゲーム」「障害などに応じた保育及び支援」「個々の発達に応じた援助」「製作」「相手も自分も尊重した会話」である。しかし、平成26年度では、「あまりできない」「できない」の合計が30%を超えたものは、「ピアノ実技」「計画立案」「記録」の3項目に減っていた。

平成26年度に苦手項目でなくなったものは、次の8項目であった。すなわち、「ミニゲーム」(+26 p)、「個々の発達に応じた援助」(+25 p)、「成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成」(+25 p)、「実践」(+25 p)、「自己評価」(+22 p)、「障害などに応じた保育及び支援」(+22 p)、「一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で主体的に活動に

取り組めるようにする」(+22 p)、「製作」(+8 p)である。

児童の両年度の比較においては「製作」を除き、他の項目では χ^2 検定5%で有意差が見られた。

また、平成26年度に苦手項目とされた「ピアノ実技」「計画立案」「記録」について、平成25年度と26年度の「できる」「少しできる」を選んだ率を比較した結果は、「ピアノ実技」(+2 p)、「計画立案」(+27 p)、「記録」(+13 p)である。

専門力の「ピアノ実技」「読み聞かせ」や、コミュニケーション力の「挨拶」「周囲の人との適切な人間関係」の項目では、両年度の差はほとんど見られなかった。

Ⅲ 考察

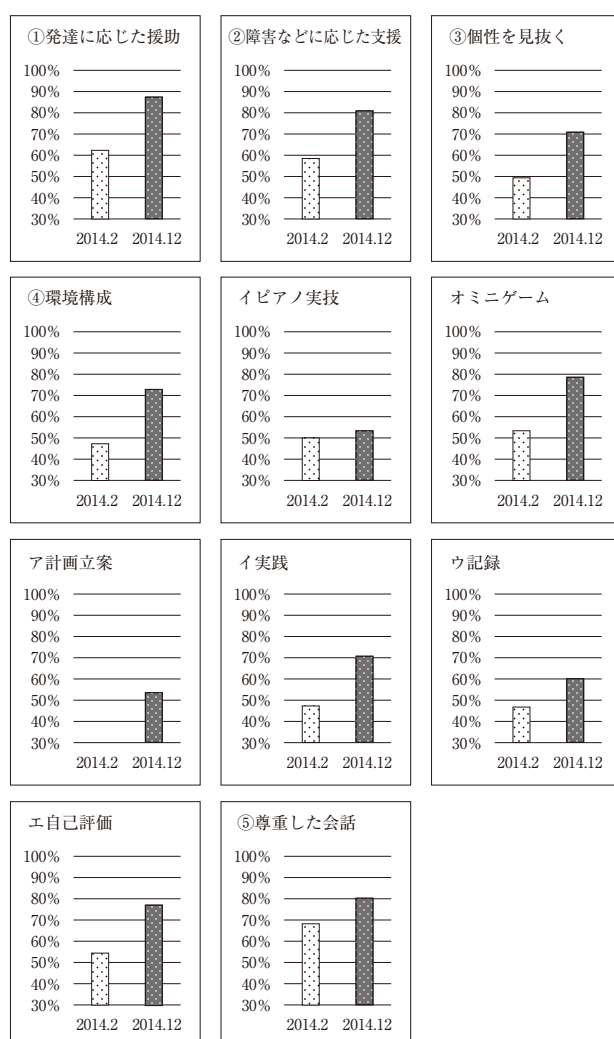
厚生労働省の新規卒者の離職状況に関する調査¹⁾で医療福祉職の1年未満の離職は平成26年で13.3%であり、介護職、保育士は離職の原因として賃金の低さがあげられる。しかし介護職の離職理由の一位は人間関係に関するものであり、保育士では、労働時間の長さが高い率で挙げられている。また福祉職を目指す学生は自己評価が低く、うまく自分を表現できないことが人間関係を悪くさせると考えられる。さらに技術面についての自己評価が低い場合、人間関係にも影響を及ぼすと考えられる。

そこで前回の調査で自己評価の低かった項目に着目して教員による授業改善を図った。

地域では平成25年度に苦手科目であった「移乗介助」「入浴介助」については平成26年度には得意意識がかなり高まっており、授業改善効果が表れていると考えられる。

生活支援技術は知識のみならず技術の習得を持って「できる」と判断される。演習では健康な学生が利用者役をするので、正しい技術を用いているのかどうかわからないこともある。そのため、学生は正しくできているのかどうか自己判断できずに、自信がないと感じることが窺われる。そこで教員が一人一人の技術チェックとしてテストを行い、それを学生に伝える方法をとった。自分のできること足りないことが明らかになり、合格したことが自信に繋がったといえる。

一方、平成25・26年度ともに苦手科目である法的



な知識（介護保険法、生活保護法、虐待防止法、権利擁護、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）、「悲観的思考」や平成26年度に苦手意識とされた「買い物支援」に関しては、授業科目には無い項目もあり、今後の検討も必要と考えられる。法的な知識に関しては小テストの導入、視覚的に分かり易い表・図等の資料の活用等の努力の成果が結果として現れなかったのは、法の理解に関しての学生の苦手意識・関心の低さも影響していると考えられる。

児童では、平成25年度に苦手項目としてあげられていたものは「計画立案」「実践」「記録」、「子どもの遊びを豊かにする環境構成」「保育実技-ピアノ実技」「自己評価」「ミニゲーム」「障害などに応じた保育及び支援」「個々の発達に応じた援助」であった。

この中で平成26年には「計画立案」「実践」「環境構成」「ミニゲーム」「主体的に活動に取り組めるようにする」については飛躍的に得意とされ、意識も高まっている。

授業改善として取り挙げられていた項目は、「発達に応じた援助」、「環境構成」、「障害などに応じた保育」、「主体的に活動取り組めるようにできる」な

どであった。

今回の結果については、「児童」は平成25年度生は2月、平成26年度生は12月に調査を実施しており、授業改善の効果以外に実施時期の違いによる心理的な影響もあるのではないかと考えられる。

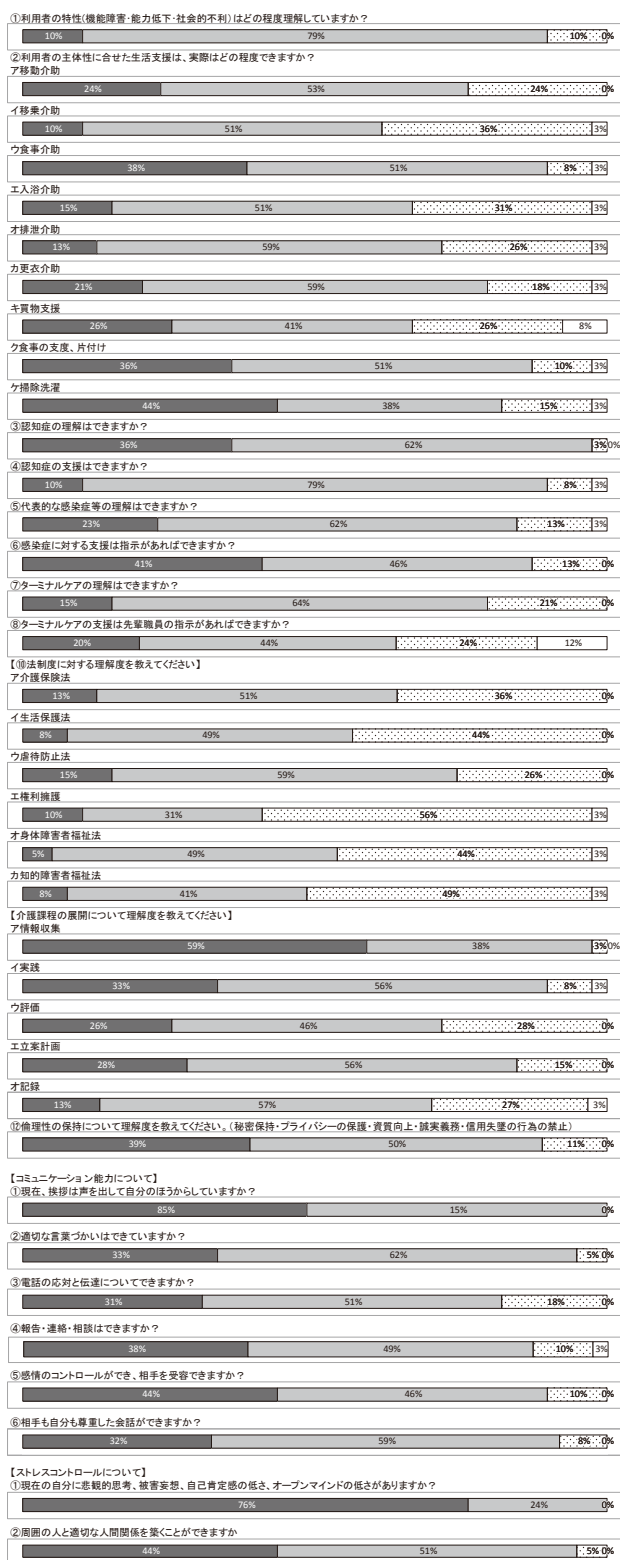
Ⅳ 今後の課題

学生の職業能力の自己評価については、平成27年度も実施しており、更なる調査分析が必要である。その上で、学生が苦手と考える分野について自信と意欲を高めていくためには、どのような授業改善の取組が必要なのかを、各専攻の各教員はじめ学科全体として考えていく姿勢が問われている。

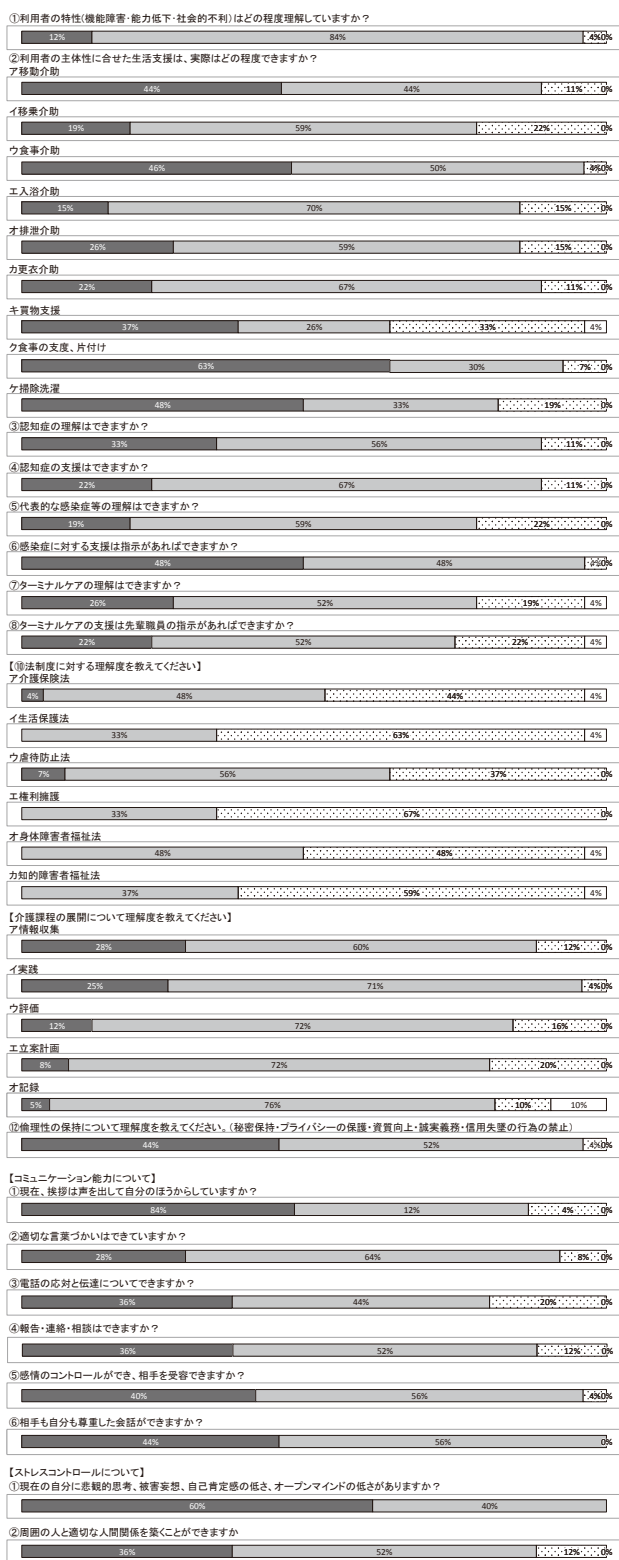
参考文献

- 1) 厚生労働省「新規学卒者の離職状況に関する調査」平成27年10月
- 2) 介護労働安定センター（2014）「平成26年度 介護労働実態調査」
- 3) 植草学園短期大学紀要（2014）「福祉分野における人材育成に関する産業界ニーズ調査研究（その1）」
- 4) 植草学園短期大学紀要（2015）「福祉分野における人材育成に関する産業界ニーズ調査研究（その2）」

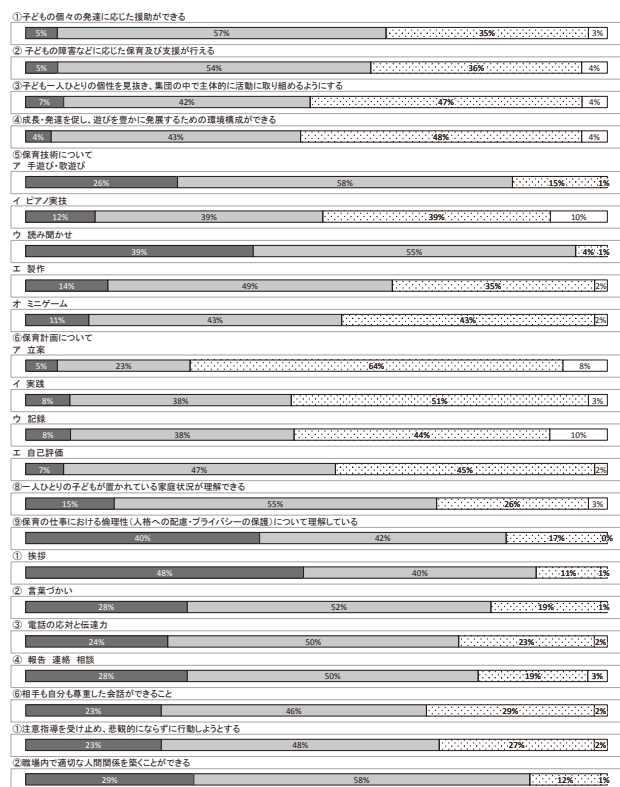
参考資料1：グラフ1



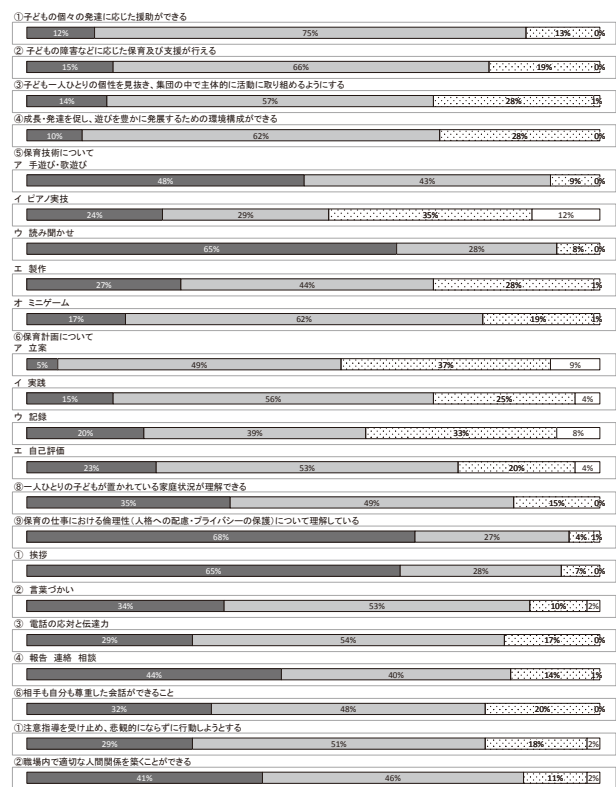
参考資料2：グラフ2



参考資料３：グラフ３



参考資料４：グラフ４



参考資料5：アンケート調査票

平成 年 月 日 ()			
専攻	学籍番号	氏名	希望施設
地域介護福祉 1年 2年 専攻科			1.高齢者関係施設 (①特養②老健③その他) 2.障害者関係施設 3.その他
【専門力について】			
①利用者の特性(機能障害・能力低下・社会的不利)はどの程度理解していますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
②利用者の主体性に合わせた生活支援は、実際はどの程度できますか？			
ア. 移動介助			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
イ. 移乗介助			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ウ. 食事介助			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
エ. 入浴介助			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
オ. 排泄介助			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
カ. 更衣介助			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
キ. 買い物支援			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ク. 食事の支度、片付け			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ケ. 掃除・洗濯			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
③認知症の理解はできますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
④認知症の支援はできますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑤代表的な感染症等の理解はできますか？ (疥癬・ノロウイルス・インフルエンザ・食中毒・結核等)			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑥感染症に対する支援は指示があればできますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑦ターミナルケアの理解はできますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑧ターミナルケアの支援は先輩職員の指示があればできますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑨災害時のケアの知識として、今自分にできることは何ですか？ 下から選んで○をつけてください。(複数選択可)			(ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク、ケ)
7. 報告・連絡・相談等他職種との連携を判断できる。 イ. 利用者・自分の安全確保 ウ. 他者の心のケア エ. 物品調達(指示されてできる含) オ. 炊き出しの参加 カ. 発電機の使い方 キ. AEDの取り扱い ク. 軽傷の応急処置 ケ. テント・仮設トイレの設置(指示されてできる含)			
⑩法制度に対する理解度を教えてください。			
ア. 介護保険法			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
イ. 生活保護法			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ウ. 高齢者・障害者の虐待防止法			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
エ. 権利擁護制度			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
オ. 身体障害者福祉法			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
カ. 知的障害者福祉法			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑪介護過程の展開について理解度を教えてください。			
ア. 情報収集			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
イ. 実践			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ウ. 評価			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
エ. 立案計画			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
オ. 記録			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑫倫理性の保持について理解度を教えてください。 (秘密保持・プライバシーの保護・資質向上・誠実義務・信用失墜の行為の禁止)			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
【コミュニケーション能力について】			
①現在、挨拶は声をだして自分の方からしていますか？			(1.自分からしている 2.相手からされればしている 3.会釈はする 4.しない)
②適切な言葉遣いはできていますか？(敬語・丁寧語)			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
③電話の応対と伝達についてできていますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
④報告・連絡・相談はできますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑤感情のコントロールができ、相手を受容できますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑥相手や自分も尊重した会話ができますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
【ストレスコントロールについて】			
①現在の自分に悲観的思考、被害妄想、自己肯定感の低さ、オープンマインド(違う意見の人の話に耳を傾けられる)低さがありますか？			(1.ある 2.ない)
②周囲の人と適切な人間関係を築くことができますか？			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない

平成 年 月 日 ()			
専攻	学籍番号	氏名	希望施設
1年 2年			1. 幼稚園 2. 保育園 3. 児童福祉施設 4. 社会福祉施設(成人) 5. 進学 6. 未定 具体的な施設 ()
【専門力について】			
①子どもの個々の発達に合わせた援助ができる			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
②子どもの障害などに応じた保育および支援が行える			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
③子ども一人ひとりの個性を見抜き、集団の中で個々が主体的に活動に取り組めるようにできる			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
④子どもの成長・発達を促し、遊びを豊かに発展するための環境構成ができる			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑤保育技術について			
ア 手遊び・歌遊び			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
イ ピアノ実技			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ウ 読み聞かせ			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
エ 製作			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
オ ミニゲーム			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑥保育計画について			
ア 計画立案			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
イ 実践			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
ウ 記録			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
エ 自己評価			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑧一人ひとりの子どもや施設利用者が置かれている家庭状況が理解できる			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑨保育や生活支援の仕事における倫理性(人格への配慮・プライバシーの保護)について理解してる			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
【コミュニケーション能力について】			
①現在、挨拶は声を出して自分の方からしているか			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
②適切な言葉遣いはできているか(敬語・丁寧語)			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
③電話の応対と伝達ができているか			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
④報告・連絡・相談はできているか			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
⑥相手も自分も尊重した会話ができるか			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
【ストレスコントロールについて】			
①注意指導を受け止め、悲観的にならずに行動しようとする			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない
②周囲の人と適切な人間関係を築くことができるか			1.できる 2.少しできる 3.あまりできない 4.できない

